

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第420号 平成19年12月



『サバンナの夕日』 片平 潤一

目 次

	頁		頁
1) 専門医に学ぶ	松木奈央子 … 2	5) 新入会員紹介	広報部 … 12
2) 連載企画		6) 伝言板	広報部 … 12
Paraguayの思い出(3)	西成田 進 … 4	7) 広報部インフォメーション	広報部 … 14
東京に再びオリンピックを	中島秀晶 … 4	8) 理事会報告	広報部 … 16
戦争遺産を巡って	近藤之暢 … 5	9) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 20
スマトラの思い出(2)	鹿児島武志 … 7	10) お知らせ	事務局 … 22
3) 学術部インフォメーション	学術部 … 10	11) 表紙のことば	片平潤一 … 23
4) 感染症だより	西多摩保健所 … 11	12) あとがき	鹿児島武志 … 23

専門医に学ぶ 第36回

問題

【症例】 74歳 女性

【主訴】 左眼 視力低下

【現病歴】 平成19年9月5日の夜8時頃、突然の左視力低下と上半分の視野欠損を自覚。
9月6日当院眼科外来を受診。

【既往歴】 昭和61年から糖尿病にて当院眼科を通院中。数日前も受診し糖尿病網膜症は認めず
著変はなかった。

10年前に急性心筋梗塞。糖尿病、高脂血症で当院内科に通院中。

【所見】 視力：Vd = (1.2 × + 1.75^D cyl -0.75^D A80)

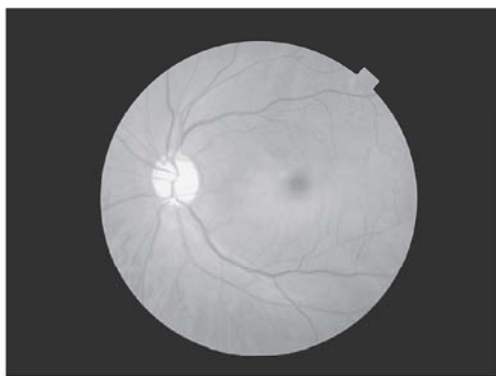
Vd = (0.3 × + 2.00^D cyl -0.50^D A60)

眼圧：右 13 mm Hg、左 14 mm Hg

前眼部・中間透光体：白内障

眼底：後部硝子体剥離、左眼の後極部に網膜の混濁（眼底写真1）

蛍光眼底造影検査：（蛍光眼底造影像 22秒）



（眼底写真1）



（蛍光眼底造影像 22秒）

問題1 診断は？

問題2 治療法は？

問題3 今後すべきことは何か？

解答と解説

公立阿伎留医療センター 眼科医長 松木 奈央子

問題1 網膜動脈分岐閉塞症 (branch retinal artery occlusion ; BRAO)。

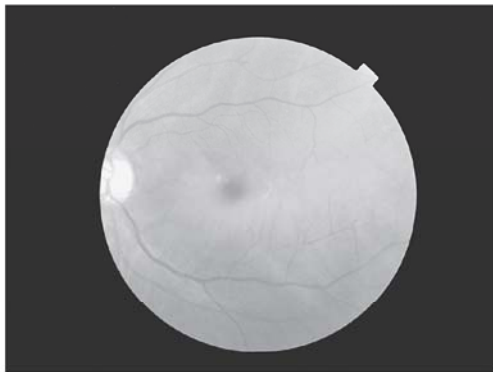
網膜動脈閉塞症 retinal artery occlusion は網膜中心動脈やその分岐が閉塞することで発症する。閉塞の原因は血栓や塞栓などで閉塞部位によって網膜中心動脈閉塞症 (central retinal artery occlusion ; CRAO) と網膜動脈分岐閉塞症 (branch retinal artery occlusion ; BRAO) に分類される。症状として BRAO では閉塞部に一致した部位に視野欠損を自覚する。網膜中心動脈は網膜内層の 3 分の 2 に血液を供給している閉塞部の網膜は虚血により乳白色混濁をきたす。黄斑部中心窩は網膜外層で構成されているので正常の色調であり cherry-red spot を呈する。

問題2 発症 100 分以上経過で網膜の機能障害が残るといわれており眼科領域の救急疾患である。実際は発症して病院に来院するまで時間が経過していることが多く、臨床的に 2 日以内ならば積極的治療を行うべきとされている。

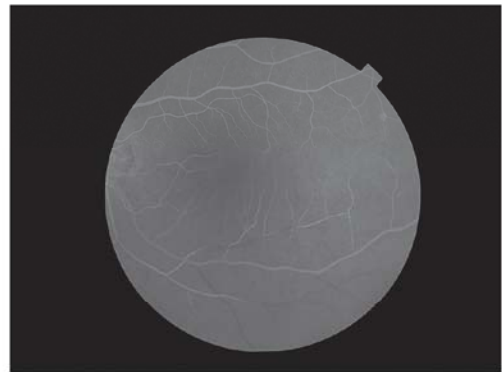
治療として眼圧下降と血流改善の目的で眼球マッサージ、前房穿刺、アセタゾラミド (ダイアモックス[®]) の静脈注射、亜硝酸アミルの吸入、血栓溶解剤の点滴などがある。また補助診断として蛍光眼底造影が有用である。

本症例では発症 12 時間経過していたが緊急処置として眼球マッサージと前房穿刺を施行した。その後の蛍光眼底造影で腕網膜循環時間と網膜内循環の遅延を認めた。前房穿刺後に網膜の混濁に改善傾向を認めた。

(眼底写真 2)、(蛍光眼底造影像 44 秒)



(眼底写真 2)



(蛍光眼底造影像 44 秒)

問題3 本症例は急性心筋梗塞の既往がありバイアスピリンを内服中であった。網膜動脈閉塞症は 60 歳以上の高齢者に発症することが多くアテローム動脈硬化による血栓形成、高血圧症、内頸動脈狭窄、糖尿病、心臓弁膜症を高頻度に合併している。特に心疾患、内頸動脈の合併症の検討は重要で、今回は頸動脈エコーで左の頸動脈の狭窄を疑われたが MRA 施行したところ明らかな狭窄はなかった。

網膜動脈閉塞症は突然の視力低下で発症する。早期治療によって視機能が回復することもあるが、時間経過が長いと視力予後不良である。早期発見・早期治療と努め、かつ眼以外に全身疾患がないか検討することが必要である。

連載企画



Paraguayの思い出 (3)

あきる野市 公立阿伎留医療センター 西成田 進

日本の真裏、南半球のパラグアイの6月は晩秋。しかし晴れて天気によければ日中は気温30度を越える。国民性が暑さのせい、日中から猛烈な仕事をするのではない（日本人・日系人を除いて）。暑さを避け、いつ腰を上げるともなく道端や日陰でぼんやりしている人々を見ることも多い。スペイン系移民の子孫の作る国。公用語はスペイン語。当然なことに「シエスタ」がある。午後3時過ぎに長い昼休みが終わると何となく仕事にもどり、ほどなくいつの間にか仕事を切り上げ、長い長い夜。時間がゆっくりと過ぎてゆく。

アスンシオンの街中には犬が多い。おそらくは野良であろう。何となく、もたもたと走ることもなく、そして車道も歩道もなくうろついているが、一部は人どうりの激しい歩道

の上で死んだように寝転んでいる。犬にかまう人はいない。歩道で寝ている犬の上を歩行者は平気でまたいでいく。犬も犬でそれでも目さえ開けない。犬は飼い主に似るといって「犬民性」というのもあるらしい。



東京に再びオリンピックを

青梅市 中島 秀 晶

私は大学時代ラグビーをやっておりました。

キャプテンは河野一郎という人でした。練習はとても厳しいものでした。

練習中に、誰かがパスされたボールとかキックされたボールを前に落としたり（ラグビーではノックオンという反則になります。）するたびにキャプテンが「ランパス一回。」と叫びます。練習が終わると、キャプテンから全員「お前は何回だ？」と聞かれます。

「ランパス一回。」を三回宣告されたら、「三回です。」と答えなくてははいけません。

「二回です。」と答えると、「嘘つくな。罰

としてプラス一回で四回。」と言われてしまいます。

キャプテンと私はグラウンドの端から端まで三往復のランニングパスをやるのです。

ランパスとはランニングパスの略で、ボールをパスしながらグラウンドの端から端まで約100mを往復することなのです。

キャプテンと私のランニングパスが終わったら、こんどはキャプテンは久米君に「お前は何回だ？」久米君「二回です。」と答えて、キャプテンと久米君は二往復します。

次にキャプテンは久山君に「？」久山君「残

念ですが五回。」

キャプテンと久山君はグラウンドの端から端まで五往復します。

きりがないのでここまでにしますが、キャプテンは全員とランニングパスをします。これを練習のたびにやるのです。キャプテンはいつも20往復以上していたと思います。キャプテンには誰もさからえませんでした。さからいませんでした。

私は、ことし58歳になりますが、20歳代のころのキャプテンをいまだに尊敬しています。

私はこの6月から、メディケア梅の園にお世話になっています。

久米君は東芝中央病院の外科部長をやっています。久山君は帝京大学内科の教授です。みんな偉くなっています。

キャプテンはスポーツ医学の方へ行って、筑波大学の教授のはずなんです。石原慎太郎に見込まれたのか、東京オリンピック誘致の事務局長などになってしまいました。

新聞やらテレビやらでキャプテンの顔を時々見ます。

キャプテンが東京でオリンピックをやりたいというのなら、

是非、東京へオリンピックを

(もし反対でしたら、「お前は一生ランパス!」と言われかねませんからねえ。)



戦争遺産を巡って (たまたまですが)

あきる野市 近藤之暢

今年は年頭に特に意識したわけでもないがいくつかの戦争遺産を巡ることが出来たのでまとめてみました。こう書くと私が平和主義者だとか、右翼だとか、軍事物に特別な興味がある人と思われるかもしれないが、そうではない事をあらかじめことわっておきます。あえていえば今年で人生50年何か今まで観ておきたいがそれがかなわなかった物ばかり観る事が出来たということです。考えてみれば物心ついた頃から父に連れられて行った立川などでは傷痍軍人の装束でデパート等の入り口に立ちいくらかの恵みを請うていた人たちが立っていたのを覚えている。本当に傷痍軍人だったかどうかは確かめようもないが、まだ戦後が身近で感じるものが残っていたのだろう。

さて肝心の場所ですが、沖縄、長崎、広島の3都市(地域)を巡ることが出来ました。

まずは1月に妻の両親とともに沖縄を訪れました。私自身は何度も沖縄を訪れてはいるものの話題にされる観光地やダイビングス

ポットばかりでした。まず沖縄南部戦跡の一つ、ひめゆりの塔とその資料館を見学しました。多くの訪問者がいたのですが妙に静かで黙々と資料に目を落としている人が多かったのが印象的でした。ちなみにこのひめゆりの塔は、同窓会立であることをご存じですか? 土地の所有者が、沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の同窓会に土地を寄付してその同窓会が運営しているそうです(国は直接関係ない。)その後一度は訪れてみたいと思っていた摩文仁の丘(現在平和祈念公園を中心としたエリアである)に立ち寄りしました。日本では唯一一般住民を巻き込んだ地上戦の場となった沖縄でその終結の地となり激戦地区の場所です。国籍、民族などを問わず沖縄戦線でなくなったすべての人々、名が刻まれている平和の礎、平和の火を前にするとその悲惨さは感じないものぐつとくるものを感じました。沖縄県平和祈念資料館も観ましたが、建物が何となくリゾートホテルの様な外観と作りであるのは少し残念でした。

(6)

ただここはひめゆり塔と異なり訪れる人が少ないように感じました（公営となってしまうと皆さん興味がなくなるのでしょうか？）。今回の沖縄行きは美ら海水族館や首里城も観ましたが、こちらは華やかなのはいいのですが、何となく薄っぺらな感じを受けました。

次は6月に長崎を訪れました。これは本当のところ妻がテレビドラマ「愛し君へ」のロケ地を巡ってみたいと言い出したので、以前に行き損ねた針尾送信所を見に行くことを条件に訪れました。長崎自体は以前来たときよりもきれいで魅力的な観光地となっていました。出島も発掘復元が進み見学やその歴史を勉強するにもわかりやすくなっています。眼鏡橋も幾度かの流失後復元され再度の流失がないように治水されていました。散策するにも歩道が整えられのんびりと歩けます。大浦天主堂やグラバー邸を中心とした地域も散策しやすくゆっくりと観ることが出来ました。長崎は被爆地として大変有名ですが町中で被爆の跡となっているものは全く見かけませんでした。唯一一本柱鳥居（地元のタクシー運転手は片足鳥居とっていました）だけがその被爆跡を物語っているように思いました。長崎原爆資料館は多くの韓国からの修学旅行生が見学していました。原爆の悲惨さはいまでもありませんが、その後の復興（まさに意識的に残していかなければ被爆したことなどどこにも意識させないほどです）は、きつと並々ならぬ苦労があったのだらうと思います。街がきれいであればあるほどその苦労が感じられました。ちなみに長崎の原爆といえば浦上天主堂の名をよく耳にするとおもいますが、その被爆中心地をご存じでしょうか？長崎原爆資料館のすぐ近くなのですがわざわざ訪れる人はあまりいないようです。観光客は時間の都合でしょうか、資料館から「あそこがその被爆中心地です」と案内されて終わってしまうようです。今は御影石の碑がたっていますが、資料館にある「CENTER」と殴り書きされた標識がたっている写真が印象的でした。被爆中心地に立ち空を見上げると何ともいえぬものを感じました。一度たずねてみてください。同日は嬉野温泉で宿を取り、



翌日目的地である針置送信所へ向かいました。ここは特別な観光地でもなく一辺約300mの正三角形に配置された約120m高のコンクリート製のアンテナ塔があるだけです。しかしこの建造物は、大正時代に建てられた物であり、あの「ニイタカヤマノボレ」の太平洋戦争開戦の電文が送信されたところとされています。今はそのアンテナ塔の役目を終え文字通り遺物（遺産ではないようです）として残っているだけです。しかしその外観は壮観でありもう少しその役目（負の意味も含め）や建造物そのものの価値（80年以上経ってもコンクリートの欠片一つ無いほどよく造られています）などが全国的にも取り上げられてもいいのではないかと思います。自分としては趣味のアマチュア無線用のアンテナ用に使えたらいいな！と思っています。ちなみに長崎ハウステンボスの近くであり実際に目にした先生方もいらっしゃるのでは無いでしょうか？

太平洋戦争の開戦と終戦のきっかけとなった地を訪れる心に残る旅でした。

10月には広島を訪れました。これもわざわざ被爆地が目的では無く安芸の宮島の紅葉が目的でしたが実際にはまだ紅葉狩りには早かったようです。ただ紅葉まんじゅうが登録商標では無く一般的に誰が作ってもいい物だということを知りました。最初に作った人が広くみんなで作りその土産物としての価値を高めたようです。広島市自体は大変な大都市であり広島城近辺を中心として商業、行政が集まっている地でした。また広島市民球場やその近くの繁華街は地下が発達しており動きやすいところのように思いました。原爆被爆

地もこの近くであり、地下街は核シェルターにでもなるのではないかと感じました。平和記念公園は、元安川と太田川（本川）の中州にあり元安川を挟み原爆ドーム（当時の広島県物産陳列館）が建っています。広島平和記念資料館は遠足で来たという小学生でにぎわっていました。また白人の外国人が多く訪れていました。悲惨な被爆地は今でこそきれいな状態ですが当時の写真や遺品を陳列しており、その惨状を伺うことが出来ました。中でも人の影がそのまま遺ってしまった石段の



実物などは衝撃的でした。またキノコ雲などが呉市あたりから時間経過とともに写真として遺っているのには驚きました。全体としては多くの報道や記録がマスコミなどでも取り上げられている事が多かったです。今回訪れて自分が不勉強だったのもありますが、いくつか新たな知識が得られました。まず記念資料館の中央から原爆戦没者慰霊碑を通して平和の灯を観ると川を挟んで建っている原爆ドームが正面にみえること。その原爆ドームは被爆中心地ではなく、そこから約200m位離れた島外科という病院（小さい碑がたっています）であったこと、さらに投下目的地が相生橋という日本でも珍しいT字型の橋であったこと等です。

帰りに少し足を伸ばした呉市の大和ミュージアムに寄ってきました。10分の1の模型がありなかなか見応えのある資料館です。

今回（今年）いくつかの戦争関連の地を巡ることが出来て思ったことは今平和でよかったと同時にこれからも平和が続いてほしいということでした。

エノラゲイの機長がつい先日亡くなったとの報道がありましたが、人が人を殺すことが正義とされるような世界はごめん被りたいものです。



スマトラの思い出 (2)

青梅市 鹿兒島 武志

インドネシアは種族の数が多く、言語も50を越すといわれる。また赤道直下に属しているが、ジャングルの有様も多様である。例えばスマトラ島のジャングルとニューギニアのそれでは天と地ほども違うという。先日、太平洋戦争の史実というタイトルで旧日本軍の様子を記録したドキュメンタリーフィルムを見たが、敗戦の色濃い時期、かの地を行軍、敗走する兵士たちの前に立ちはだかるニューギニアのジャングルのすさまじさには思わず眼を奪われた。生い茂った密林の中では倒木

に遮られて空が全く見えないので例えていえば、何も見えず、まるで深海に住んでいるようなものらしい。湿気の多い沼地には人間はおろか、およその四足の動物は住むことは不可能である。いってみればプチ地獄のようなものだ。

幸い私が訪ねたスマトラのキャンプ近くのジャングルは時代も環境も戦争さなかのニューギニアとは比較にならない位優雅であった。小道を歩くとサルが時折木から木へと飛び交い上を見上げるとパパイヤ、ドリア

ンが実を連ねている。木陰から見える青空には舞い飛ぶさまがとても優雅なのであいにく写真はないが「森の妖精」と呼ばれているグレーの下地に黒紋様の模様が入った大型の蝶がヒラヒラと舞っていた。この蝶を取りたさに一時帰国をした時に渋谷の専門店でも20メートル位の採集網を購入した位に綺麗な蝶である。インドネシアのジャングルは蝶(写真1)の宝庫といっても過言ではないと思う。

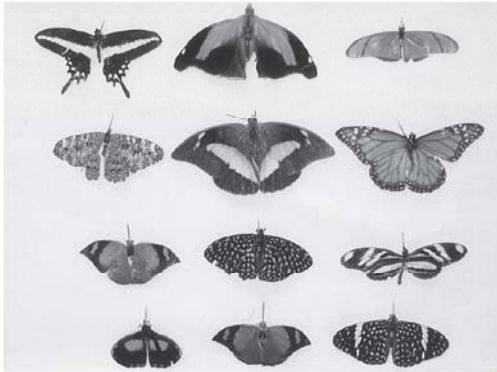


写真1 25年経っているので他は型くずれをしてしまった

キャンプ内では休日は他にやる事もないせいにか蝶の収集に熱を上げている人が大勢いたが、彼らの中には大型のアトラス(オオカブトムシ)という東南アジアで見られる立派なカブトムシを片端からピン留めしているコレクターもいた。初めて見た時、たくますぎるアトラスは概して生理的に昆虫の嫌いな私には気持ちが悪くなるほどであった。ところが、幸か不幸かジャングルの中にまで無理をして採集にでかけなくとも、ある日の夕方、我が家の網戸にへばりついているアトラスを見つけた。はじめは小型のコウモリかと思ったが、大きさは全長8cm強のまさしくアトラスであった。適当な籠もないので籐の物入れを逆さにして早速拘束したが、性格は結構獰猛らしく怒りまくってギイーと怒りの声を出し始めた。日本のカブトムシと同じように羽の生えている腹の部分を上から掴んでみると物凄い虫力?で身体を曲げてきた瞬間人差し指を挟まれてしまった。痛いのと驚きで眼が点になったが、慌てて角を掴んで元に戻した。後で聞くとまだ小さい方で大きなサイズになると11cmにも達するという。もはや昆虫と

は言い難く背中を這ったら気絶しそうだ。試しにパパイヤなんぞを与えてみたが、3日で憤死してしまったようで動かなくなってしまった。熱帯ではムカデだろうが、トカゲだろうが何しろ大きくなるらしい。

ある時、キャンプ近くのジャングルで5,6mの大蛇が犬を飲み込んだという話を聞いた。現場には直径100m位の滝壺があり噂ではこの激流に飲まれた現地人の骨や流されたトラックの類が池の底にたまっているという。その傍のジャングルで犬が犠牲になったというので火事場見たさで仕事はそっちのけでサラギ(ドライバー)に案内してもらった。結局、犬を食した蛇は姿を消していたが、その代わりに落ちてくる滝流の傍らに沢山の巨大コウモリが崖にまといつているのが見えた。羽を広げると1mをらくに越すらしい。闇にまぎれて人も襲うので人食いコウモリと現地では呼ばれていた。確かにサラギはあのコウモリはオラン(人)マカン(食べる)だといっていたが、後でおそらく腐肉でも食らうということなのだろうと聞いて安心した。もっともその頃には全てが自然の恵みの恩恵と心得て、虫や動物のサイズやワイルドな環境には何を聞いてもあまり驚かなくなっていた。

ジャングルは確かに生き物の宝庫だが、道端から眺める農村風景はいたってのどかである。長距離の移動は車しか手段がなかったが、車窓からみる限り自然との調和は住人と家畜の間でも保たれていた。バタック族の伝統的な家々は高床式の木造建築で、家の屋根本体は飛騨の白川郷のような格好をしている。床下には鶏、犬、猫、ヤギ、そして黒豚(写真2)。これが定番であったように記憶している。インドネシアは9割がイスラム教徒であるが、キリスト教徒もいてちょうど我々のキャンプ地はバタック部落が多く豚を飼っている農家も多かった。インドネシアの人々は共存共栄で一族の誰かがえらくなると皆が集まってきて、食べ物は分かち合い、収穫も働きも一緒にということらしい。あくまでも四半世紀前の状況なので現在は高度にオートメ化が進んでいるだろうから動物の雑居状態をさがすのは困難かも知れな



写真2 黒豚がほとんどであった

い。しかし当時はバタック部落では晴れがましい行事の際には運の悪い豚（写真3）は写真のごとくになって一族の繁栄と胃袋の足しに貢献していた。ちなみこの豚の丸焼きは高級料理で中国系が好んで食べていたが。ゲストは耳のカラッとした部分を初めに食べる権利があり、私も恩恵に預かった。うまいという味わいよりもパリッとした香ばしい食感が大事なのだそうだが、とても目の前にして唾を飲み込むほどの美味ではない。それでも噛み締める度にこれでイスラム教徒にはもうなれないと思ったものだ。

さてパリトハンにいて動物との出会いで最も印象的だった出来事は猫との出会いだった。赴任して間もないころ所帯持ちとはいえども、かつて4LDK などという大きな家には住んだことがなく、少ない家財道具ではどうしてもすべての部屋を使いこなす訳にはゆかない。従って未使用の部屋にカビが生えてくるのも気にしないとなると部屋の存在すら忘れてしまいそうになる。ある朝、その忘れられた部屋かららしいが、なんとガサガサと妙な物音がするのに気が付いた。そっとドアを開けて隙間からみると4匹の子猫が走り回っていた。窓が不完全な作りのため網戸のすみっこを親猫が根性で開けて不法侵入したようだ。僅か7、8cmの隙間から屋外で生んだ子猫どもを加えて運び入れたらしい。さすがにカブト虫のときよりは驚いたが人間を初めて見る子猫共（写真4）はもっとびっくりしたようだった。付近にノラネコがいるなどは気付いていたが、まさかこの部屋で勝手に許可なく寝泊まりしているとは迂闊であった。



写真3 子豚のロースト。薬味はスパイシーな辛子が多い

多分、野生の感でキャンプの外よりは安全な人家を選んだようで、まるで空き部屋であることを知っていたようだった。総毛を逆立てて人間を威嚇しているが、子猫といえども回りに親が運んできた小動物の残りが散らばっていて気が悪いことこの上ない。ある時にはカワセミの首があったり、訳のわからない蛇の一部があったりと消毒をしまくっても親猫が餌を運んできそうな気がして根負けして結局餌付けをすることにした。人間に馴れるまで暫くかかったが、残飯の方がよほど美味しかったのだろう。それ以後はゲテモノが床に落ちていることはなくなった。幸い猫好きの引き取り手が多数いて下さり、お顔のまずい1匹を残して全てもらわれていった。養うべき責任もないのでやたらせいせいした事はよく覚えている。ところでこの猫どもには後日談がある。あろうことか半年後には生まれた子猫と元親の間でまた子猫というか孫猫が生まれてしまった。母と息子か父と娘の組み合わせはよく似ているので判らない。（何ということだ!）どうやらこの熱帯の国では年



写真4 もらわれていった子猫

に犬猫は2回は出産するらしい。これをインドネシア猫算と名づけたがその後の彼らの相関模様は知るよしもない。

クリニックでは相変わらず現地人がアクリイを売りこみにきたり、かたやガルーダという鷲を買わないかといってきたりでたいそう賑やかであった。日本人がうまいこといわれアクリイを買われたが、餌がなく仕方ないのでパンクズを与えていたら数日で死んでしまったという動物愛護協会が聞いたら眼を剥きそうな話もあった。またクリニックには咬まれてはいけない毒蛇のホルマリン標本がところ狭しと並べてあった。走行中のジープから半身を出した青年が、運悪く木にぶら下がっていた蛇に出くわし上腕をガブリと咬まれた事件があった。血清などしゃれたものは

一切ないので実に笑えない話が一時現地のスタッフの間では笑いの種になっていた。

そろそろ半年も経つ頃には毎朝の家の前の庭に手長ザルの群れが「ホウッホウッ」とわめきながら覗きにくるのもすっかり馴れてきた。相変わらず朝は肌寒い。熱帯といってもここは標高900mで涼しく、日本でいえば軽井沢にいるようなものであった。この頃になると仕事に対する馴れと飽きと焦りが同時にきて複雑な心境になり、朝から晩までこき使われた前職が却って懐かしく思われ、里心も着き始めてきた。クリニックの窓から見える毎日全くといっていいほど変わり映えのしない山々の緑を見ては四季折々の楽しみがありかつ騒々しい日本が妙に恋しく思えてきた。

(続く)



学術部

Information



《学術講演会要旨》

日 時：平成 19 年 10 月 3 日 (水) 19:00 ~

場 所：青梅市立総合病院 南棟 3 階 講堂

演 題：「見逃してはいけない末梢神経障害」

講 師：青梅市立総合病院 外科 部長 正木 幸善 先生

従来、国内では閉塞性動脈硬化症 (Arteriosclerosis obliterans: ASO) の診断名であった下肢を主とした血行障害疾患は、国際的には末梢性動脈疾患 (Peripheral arterial disease: PAD) と呼ばれ、この診断・治療のガイドラインが 2000 年に TASC (Management of Peripheral Arterial Disease. Trans-Atlantic Inter-Society Consensus) として発表された。さらに 2007 年 1 月には日本脈管学会も含めた 16 学会から改訂版として TASC II が発表され、エビデンスに基づいた診断や治療が推奨されている。

PAD は全身の動脈硬化の一部分症であり、わが国でも高齢化とともに、高血圧・高脂血症・糖尿病・肥満・喫煙等の危険因子の増加により決まらな疾患ではなくなっている。また、虚血性心疾患・脳血管疾患の場合には PAD の合併の可能性があることを認識すべきである。

今回は末梢動脈疾患の疫学、心疾患系のリスクファクターの管理と合併疾患、間歇性跛行、慢性重症下肢虚血、急性下肢虚血、血行再建術について TASC II の内容を中心に解説した。特に強調したいのは、問診・視診・触診を丁寧に行うことにより、日常診療においても PAD を診断できる場合も多いとおもわれるので、特にリスクファクターを有する症例を診察する場合には本疾患を念頭に置くことが肝要と考える。

感染症だより

<全数報告>

第41週(10/8-14)から第45週(11/5-11)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核10件(肺結核5件、その他5件)

(三類感染症) 腸管出血性大腸菌感染症2件(10歳男児、5歳女児、血清型・毒素型はO157(VT1)、O157(VT2))

(五類感染症) アメーバ赤痢1件(40歳代男性、腸管アメーバ症、推定感染経路は同性間性的接触)

<管内の定点からの報告>

	41週	42週	43週	44週	45週	2007年 累計
	10.8~14	10.15~21	10.22~28	10.29~11	11.5~11	
RSウイルス感染症	0	0	1	1	1	15
インフルエンザ	0	0	0	0	1	1,666
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	35
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	1	4	4	1	157
感染性胃腸炎	17	10	8	8	27	850
水痘	2	0	6	3	9	339
手足口病	4	10	1	1	0	115
伝染性紅斑	0	0	0	0	0	152
突発性発しん	2	5	3	1	2	133
百日咳	0	0	0	0	1	4
風しん	0	0	0	0	0	2
ヘルパンギーナ	1	2	0	0	0	109
麻しん(成人以外)	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	0	25
不明発疹症	0	0	0	0	1	7
MCLS	0	0	0	0	0	1
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0	1	1	0	0	11
合計	29	29	24	18	43	3,621

※基幹定点報告対象疾病<細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウムを除く)、成人麻疹>:報告はありませんでした。

<コメント>

①インフルエンザの発生報告が増加しています。

都内の発生報告数は、1999年以降の同時期の比較で最も多く、また、流行の立ち上がりも例年より早くなっています。都の定点あたり報告数は0.64ですが、近隣の神奈川県などですでに流行の目安となる1.0を越えています。診療にあたり注意が必要です。

都に搬入された検体からは第45週まですべてA型ウイルス(AH1亜型)が検出されています。集団発生の9事例からも、同型のウイルスが検出されています。また、これらのA型ウイルス(AH1亜型)の抗原性と、2007/2008シーズンのワクチン株の抗原性の違いが報告されており(病原微生物情報2007年11月号、IDWE感染症週報第9巻44号)、今後の発生動向に注意が必要とされています。

②会員の先生から Dengue 熱についてお問い合わせをいただきました。

Dengue 熱は四類感染症に分類され、日本では年間の発生報告数が50件前後です。アジア、オセアニア、中南米などに旅行する日本人が増加する中、流行地からの帰国者の診察にあたっては配慮が必要です。

流行地で、Dengue ウイルスを媒介する蚊(ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど)の刺咬を受けると、5から8日の潜伏期を経て、発熱、頭痛、関節痛などで発症します。発症後3から4日後から発疹が出現し体感から四肢顔面へと広がります。10から20%の患者で重症化し、出血症状やショック症状を呈することがあります。

本年本邦での発生報告数は第44週までですすでに81件となっており、年間報告数として過去最多となっています。本年は、春先にインドネシア(バリ島)での流行があり、同地を感染地とする発生報告

が多くを占めています。ほかに、フィリピン、カンボジア、インド、タイなどを感染地とする報告があり、また、シンガポール、マレーシア、サモア、ドミニカ、ホンジュラス、コスタリカ、パナマ、ブラジルなどが今年の流行地となっています。

有効な抗ウイルス療法はなく、またワクチンも存在しません。したがって、渡航前の相談には渡航先の流行状況の把握、長袖の着用、昆虫忌避剤使用などをご指導ください。流行地からの帰国者の診察ではデング熱についても配慮の上診察いただき、診断確定の際は発生届の提出についてもよろしくお願い申し上げます。
(文責：西多摩保健所保健対策課)

新入会員紹介

あきる野市 いなメディカルクリニック 内藤茂憲会員



平成18年7月より、五日市線武蔵増戸駅5分のいなメディカルクリニックの院長となりました内藤茂憲です。出身は渋谷区恵比寿です。

昭和59年に千葉大学医学部を卒業、同大学旧第3内科に入局、千葉大学附属病院や関連病院で研修し、平成4年に医学博士を授与されました。専門は循環器内科です。趣味は旅行と読書です。

地元出身ではありませんが、地域医療に貢献できればと考えております。宜しくお願い申し上げます。

伝言板

①『忘年クリスマス会』開催のご案内

年末の恒例となりました『忘年クリスマス会』を下記にて開催致します。皆様お誘い合わせの上、是非ご出席下さい。

日 時：12月10日(月) 午後7時30分～9時30分

場 所：昭和の森 フォレストイン昭和館 Tel 042-542-1234

会 費：A会員 15,000円

B会員 5,000円

ご家族・職員 4,000円(お子さま無料)

余 興：中村まきこ氏のエレクトーン&シンセサイザー演奏とトークショー

楽しいイベント盛りだくさん 豪華景品の福引きもあります
お気兼ねなく軽装でおいで下さい

② 平成20年『新年賀詞交歓会』開催のご案内

日 時：平成20年1月19日(土) 午後6時～
場 所：青梅市福祉センター「ふよう」
会 費：5,000円

③ 第6回西多摩医師会臨床報告会のご案内 及び演題募集について

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
第6回西多摩医師会臨床報告会を下記の要領で開催致します。つきましては、
日常の診療でお忙しいとは思いますが、奮ってご参加下さいますようお願い
申し上げます。

記

日 時：平成20年3月18日(火) 午後7時30分から
開催場所：青梅市立総合病院 3階講堂

演 題 募 集

西多摩医師会会員の皆様の臨床での貴重な経験を発表してください。
演題名および抄録を西多摩医師会へFAXしてください。

発 表 者：西多摩医師会会員に限ります。

コメディカルのご発表は会員との共同発表になります。

発表希望者が多数の場合、次回発表とさせていただきますこと
があります。

発表内容：症例報告、臨床研究、医院の運営方法、その他会員が聞いてため
になることなら何でも構いません。

発表時間：1演題10分でご発表いただき討論を含めて15分の予定です。

応募要領：発表内容を400字程度にまとめてFAXしてください。

発表者の抄録は、医師会会報に記載します。

尚、スライド・OHP等使用を明記して下さい。

募集期間：平成19年12月20日(木)～平成20年2月15日(金)





広報部 Information



今回の広報部だよりでは、冬の定番とも言えるイルミネーションについてインターネットのサイトと関連して紹介していきたいと思います。

冬のイルミネーションというと、クリスマス気分を盛り上げてくれたり、空気のきれいな冬に燦然ときらめいていたり、寒い中でも見るものの心を暖かくしてくれます。一昔前までは、あまり特集されなかったのですが、最近ではイルミネーションを施している街が増えて、色々な媒体で特集が組まれています。今回は、都心の定番スポットを紹介するとともに、多摩地区（特に西多摩）にもスポットを当て、詳細な情報の得られるインターネットのサイトを同時に紹介していきたいと思います。

（都心の定番スポット）

正直なところこの時期、都内はイルミネーションにあふれているといっても過言ではありません。一番簡単に集客できるからかもしれません。スポットとして書ききれないので、インターネットのイルミネーション紹介サイトを掲載してみました。

1. 丸の内イルミネーション 2007 (http://www.marunouchi.com/special/07_08illumination/)
今、東京の中で一番旬な街と言えば、東京駅周辺かもしれません。このサイトでは、丸の内を中心とした、イルミネーションの紹介をしています。
2. クリスマスデートナビ 2007 (<http://www.date-navi.com/xmas/>)
このサイトでは、クリスマスにデートで利用したいイルミネーションが多数掲載されています。東京に限らず、東京近郊まで掲載されており、広範囲に情報収集するのに役に立ちそうです。
3. 光都東京・LIGHTOPIA2007 (<http://www.kouto-tokyo-lightopia.jp/>)
地球・環境・平和をコンセプトにした光の祭典。
4. 東京イルミネーション MAP/ レッツエンジョイ東京
(<http://special.enjoytokyo.jp/TK/071101illumi.html>)
東京の主要なイルミネーションスポットは網羅しています。



(西多摩地区)**1. 立川駅・国営昭和記念公園 (<http://www.tachikawa.or.jp/tti2007/index.html>)**

立川駅を中心に、南口・北口・昭和記念公園を結ぶトライアングルを「TACHIKAWA Triangle Illumination」と名付けています。非常に規模の大きなものですが、各々の開催期間が異なる点などは、注意が必要かもしれません。

2. 八王子夕焼け小焼け公園 (<http://www.hachioji-kankokyokai.or.jp/yuyake/yuyakekoyake.htm>)

八王子市上恩方にあります。点灯期間は、12月1日～12月25日：18時～21時。

3. 多摩センター駅 (<http://www.medianet-as.jp/illumi2007/info.htm>)

多摩センター駅からパルテノン多摩にいたる遊歩道を中心に、約38万球のイルミネーションが施されています。私が多摩センター駅近くの病院に勤務していたころは、残念ながら、このようなイベントはありませんでした。

点灯期間は、11月11日～2月14日：16時30分～23時。

4. 奥多摩大丹波地区 (<http://www.ohtabaturiba.com/illumi/>)

このイルミネーションは、私は全く知りませんでした。「奥多摩の山中に50メートルの巨大なツリーが登場。山の中に映し出される壮大なツリー。森林をキャンパスに縦50メートル横80メートルの巨大イルミネーションを設置するほか、地域の各家庭約50戸にイルミネーションを点灯します。」とのことであり、大変壮大なものを想像します。中心は輪光院上部山林（大丹波川左岸「北川橋」対岸）点灯期間は、各家庭は12月1日～12月31日：17時～22時、寺山の巨大ツリーは12月1日～1月5日：17時～22時。

5. 日の出大久野地区

2005年から開催されているイルミネーション。大久野中学校前から萱窪信号までの約1キロに及ぶ街路樹99本に装飾される。点灯式は、12月1日午後4時45分から旧役場跡地広場。点灯期間は、12月1日～12月31日。

6. 青梅小曾木地区

過去にも小曾木三丁目住民有志による「夜空を明るくする会」がイルミネーションを行っておりました。今年の詳細は不明ですが、ご近所のおば様たちと話をしていた話題に上ったものですから、未確認情報ではありますが、掲載させていただきます。

まだまだ西多摩には、イルミネーションのスポットが多いとは言えません。しかし、ここで紹介した場所以外でも、商店街単位で、会社単位で頑張っている所もあるようです。そういったスポットは、あまりメディアで紹介されていなかったりメジャーとは言えませんが、見つけた時には、自分だけのお気に入りの場所にするのもいいのではないのでしょうか。また、最近では、個人のお宅などでも頑張っておられるところもあります。夜の西多摩は暗く寂しい所もいまだに多いので、街の美化や防犯など歓迎される側面もあるのではないのでしょうか。

(文責：古川朋靖)

理事会報告

★ Information

10月定例理事会

平成19年10月23日(火)

西多摩医師会館

[出席者：真鍋・小机・横田・新井・鹿児島・小林・鈴木・田坂・蓼沼・中野・西成田・野本・渡辺（肇）・松原・足立]

【1】報告事項

1. 都医地区医師会長協議会報告

2. 各部報告

総務部：1) 平成19年度第3回脳卒中医療連携検討会報告(10/16)

「市民触ふれあいのつどい」講演等内容、次第など検討決定

2) 新入A会員と役員懇親会報告(10/18) 役員7名、新会員8名

学術部：1) 市民健康講座(10/20) 報告(56名参加、その他スタッフ他7名 計63名)

2) 学術講演会予定

11/8 「Treat to Target－糖尿病治療の新たなる挑戦－」

11/15 「地域病診連携の中でのC型肝炎診療」

11/26 「内視鏡所見に基づく冠動脈疾患の病態解析と治療戦略」

日大 平山篤志先生

11/28 「外来での不整脈患者にどう対応するか－ガイドラインに準じた治療のしかたのポイント」 杏林大 池田隆徳先生

11/29 「呼吸器疾患の診断と治療－長引く咳嗽をどう診るか」

東海大 近藤哲理先生

公衆衛生部：在宅難病調整委員会報告(10/12) 次回、H20年1/18 予定

3. 地区会よりの報告(各地区理事)

青 梅：なし

福 生：総会 健診、休日診療について

羽 村：10/30 地区会

あきる野：10/15 例会 インフルエンザ、特定健診について

瑞 穂：10/21 特定健診、インフルエンザについて

日の出：なし

4. その他報告

○八王子医師会設立30周年記念式典出席報告(10/21)

【2】報告承認事項

1. 入会会員について — 承認 —

B会員：公立阿伎留医療センター 2名、青梅市立総合病院 1名。

【3】協議事項

1. 新型インフルエンザについて（西多摩保健所 小林課長説明）
2. 「平成19年度 部活動による競技力向上事業」に係わる協力依頼について —— 承認 ——
地区医師会へ依頼
 - 1) 日医認定スポーツ医等派遣の協力（福生高校、青梅総合高校）
 - 2) 同事業の説明会（講習会）への出席依頼
3. 特定健診等の受託に関するアンケート実施の内容質問項目・資料について —— 承認 ——
（特定健診等の機関届（保険医療機関）・運営についての重要事項の規定、情報公開の手続き（H. P への記載など）・その他）（継続）
4. クリスマス会余興について（小林理事）
中村まきこ氏のエレクトーン&シンセサイザー演奏とトークショー
5. 公立阿伎留医療センター放射線科医療機器の電話予約システムについて —— 承認 ——
6. その他
 - 地区医師会情報担当理事連絡会
11月8日（木）東京都医師会 PM15時～
医療機能情報提供制度の実施に伴う医療機能情報の調査について
 - 20年新年賀詞交歓会日程について
20年1月26日（土）PM18時～（予定）
青梅市福祉センターにて
 - 20年「医療懇」日程について（今回幹事 行政側）
20年2月2日（土）PM13時30分～

11月定例理事会**平成19年11月13日（火）****西多摩医師会館**

〔出席者：真鍋・小机・横田・新井・鹿児島・小林・鈴木・田坂・蓼沼・中野・西成田・野本・渡辺（肇）・松原・足立〕

【1】報告事項**1. 各部報告**

総務部：1) 11/21開催の「市民ふれあいのつどい」申込み状況

あきる野213名、青梅40名、羽村30名、福生4名、その他43名 合計 330名。

2) 特定健診等のアンケート集計結果について

特定健診・保健指導アンケート集計結果

平成19年11月13日

	医療機関数	特定健診のみ	両方受託	両方受託 しない	未定	回答なし	合 計
羽 村 市	31	16	3	3	0	9	31
福 生 市	34	11	7	7	0	9	34
青 梅 市	77	29	10	14	2	22	77
あきる野市	44	18	6	8	0	12	44
日の出町	6	3	2	0	0	1	6
瑞 穂 町	11	3	1	0	0	7	11
奥多摩町	6	2	1	0	0	3	6
檜 原 村	1	0	0	0	0	1	1
合 計	210	82	30	32	2	64	210

青梅市立総合病院 両方受託しない
 公立福生病院 特定健診のみ
 公立阿伎留医療センター 両方受託
 奥多摩病院 両方受託

3) 平成19年度活動競技力向上事業講師推薦の件

青梅総合高校 片平医院 片平潤一先生
 福生高校 落合クリニック 神尾重則先生 (1/12 講演)

学術部：1) 多摩医学会研究発表講演会 (11/27) 終了報告

公立福生病院及び公立阿伎留医療センターが発表された。

2) 学術講演会「糖尿病早期腎症の進展抑制から改善へ」

東京医科大 八王子医療センター医療情報室
 教授 植木 彬夫先生 (羽村市ゆとろぎ)

保険部：生保指定医療機関指導立会 (公立阿伎留医療センター) (10/30 蓼沼理事)

国保主務担当者との懇談会報告 (11/12)

学校医：平成19年度西多摩学校保健連絡協議会日程 (青梅市教育センターにて)

20年1/29 予定

2. 地区会よりの報告 (各地区理事)

青 梅：11/20 ケアマネジャーとの相談会

福 生：10/28 健康まつり

羽 村：11/27 地区会予定

あきる野：あきる野、日の出地区医師会と公立阿伎留医療センターとの懇親会

瑞 穂：なし

日の出：なし

3. その他

- 西多摩三師会勉強会（12/17（月）西多摩歯科医師会館 講堂）
「知っておきたい隣接医学の基礎知識－泌尿器科－」
講師 高木病院 泌尿器科 宮原 誠 先生
- 同市民講演会（羽村市コミセン）20年2月23日（土）に日程変更。

【2】報告承認事項

1. 入会会員について —— 承認 ——

- A会員：小久保義和 福生団地クリニック
- B会員：高木病院 1名

【3】協議事項

1. 平成20年度自治体よりの諸手当・報酬などについて（新井理事） —— 承認 ——

- 1) 平成20年度学校医、予防接種及び各種健康診査医師の報酬・委託料等について（案）
- 2) 平成20年度西多摩医師会予防接種事業等負担金（青梅市は報償金）について（案）
—— 継続 ——

2. 平成20年新年賀詞交歓会ご来賓について（案） —— 承認 ——

3. 第9回西多摩地区安全衛生大会における産業医の派遣依頼について —— 承認 —— （当日の参加者よりの健康相談）

4. 日程その他について

- 来年3月公立阿伎留医療センター「市民公開講座の開催について（泌尿器科）」
西多摩医師会後援名義の使用許可について」——（担当）朝岡 博先生
平成20年3月8日（土）福生市民会館 講師、演題など未定。
- 介護保険主治医研修会（1/23（水）西多摩医師会館にて）・かかりつけ医認知症対応力
向上研修会（2/9（土）5～6時間 公立福生病院会議室） —— 承認 ——
- 都医医事紛争担当理事連絡会 12月7日（金）PM14時30分から出席者の件
—— 承認 ——
- 「医療懇談」の日程調整、(青梅マラソン前日祭2月2日（土）のため） —— 承認 ——
平成20年2月9日（土）PM13時30分～に変更。
- 会館建設準備委員会の開催日程調整について
11/27 午後8時より
- 11月21日（水）「市民ふれあいのつどい」、音響等準備、スタッフ等の昼夜食弁当手配
など 15時 医師会館閉館予定 —— 承認 ——
- 特定健診について
国保の選択検査は可能だが社保（家族）の選択検査は公費負担は難航している。場合により無理の予測。
- 12/25 移動理事会予定。

会員通知

- 会報
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 学術講演会（11/8）
- 青梅市立総合病院地域医療連携室からのお知らせとお願い
- 学術講演会（11/5）
- 産業廃棄物管理票に関する報告書の提出及び電子マニフェストの導入について
- 平成19年度第2回東京都医師会糖尿病予防推進医療講習会開催概要
- 東京都エイズ予防月間ポスター
- オリンピックを東京に、2016年
- 子どもの虐待防止には医療機関の役割が必要です（シート）
- 子育て支援、児童虐待防止のための関係機関一覧
- 塩酸メチルフェニデート（リタリン）その他向精神薬の適正使用、処方せんに関わる疑義照会の徹底等について
- 西多摩歯科医師会公開講演会の御案内
- 平成19年度東京都医師会主催「日本医師会生涯教育講座」追加開催について
- 産業医研修会（1/12～14 産業医学振興財団）
- 「」 （12/16 慶応医師会）
- 「食」は生活リズムのキーワード！
- 学術講演会（11/26・28・29）
- 公立福生病院・医師会合同症例検討会のお知らせ（11/22）
- 「忘年クリスマス会」開催のご案内
- 学術講演会（12/4）

医 師 会 の 動 き

医療機関数	211	病 院	29
		医院・診療所	182
会 員 数	493	A会員	203
		B会員	290

会議

- 11月12日 国保主務担当者との懇親会
- 13日 定例理事会
- 21日 在宅難病訪問診療（羽村）
- 21日 会報編集委員会
- 27日 定例理事会

講演会・その他

- 11月8日 保険指導整備委員会
- 8日 学術講演会
 - 演題：Treat to Target－糖尿病治療の新たな挑戦－
 - 講師：帝京大学医学部内科学講座 教授 山内 俊一 先生
- 14日 法律相談
- 15日 学術講演会
 - 演題：地域病診連携の中でのC型

肝炎診療

－新しい「インターフェロン治療医療費助成制度」発足にあたり－

講師：青梅市立総合病院消化器科 部長 野口 修 先生

21日 市民ふれあいのつどい

1. 講演「西多摩地域の脳卒中医療連携」
フィルム「脳梗塞予備軍－あなたは大丈夫ですか？」
2. さこみちよ
「ふれあいコンサート」

22日 公立福生病院・医師会合同症例検討会

- ①外科「フルニエ症候群の1例」
演者：公立福生病院外科 医師 平野敦史 先生
- ②小児科「短期間に再発したAFBN（急性巣状細菌性腎炎）の1例」
演者：公立福生病院小児科 医長 西尾利之 先生

お知らせ

事務局より お知らせ

平成20年1月(12月診療分)の

保険請求書類提出

1月8日(火)

— 正午迄です —

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽にご相談ください。

- ◎相談日 12月は12日(水)
1月は9日(水)の予定です。
 - ◎場所 西多摩医師会館和室
 - ◎内容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・刑事に関するどのようなものでも結構です。
 - ◎相談料 無料(但し相談を超える場合は別途)
 - ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- (注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

年末・年始

医師会館休館のお知らせ

年末・年始事務局は下記の通り休館いたします。

記

12月29日(土)～1月4日(金)まで

(業務は28日正午までとさせていただきます。なお1月5日(土)より平常通りとなります。)

表紙のことば



「サバンナの夕日」

サファリで、ハイエナとハゲコウが群がっていました。キリンはあらかた無くなっていました。そばの木の上ではハゲコウが待っています。知らぬ間に夕暮が迫ってきました。急いでロッジに帰らなければ。

(タニザニア・セルーにて)

青梅市 片平 潤一

あ と が き



いつも立ち寄るスーパーでは各階に同じ店内放送が鳴り響いている。放送といっても客をその気にさせるような、例えば2月なら節分を過ぎた頃からひな祭り、また4月の桜が舞う頃には端午の節句といった普段はあまり聞かない童謡や唱歌が多い。季節感に誘われて、お客がつつい衝動的に買ってしまおうという訳でもないだろうが、不思議に毎年、同じような「おうた」を聞くはめになる。12月となったら店はここぞ商機とばかりにジングルベル、25日が過ぎたら園児のお正月の唄がどこでも聞こえることだろう。

どうして師走にはケーキがバカ売れしたり、バレンタインにはチョコレート菓子がかくも巷に氾濫するのか？何故ウナギをことさら沢山食べる日まで特別に決めてあるのか？商品がどっさり山積みされ、それを買う人間が右往左往している。無理して買う理由はないにしても、不思議に思う。

時代小説を読んでいても季節感や行事の節目ということを昔から我々日本人は事の他大切にしているようにも思えるが、現代では旬や節目がともすれば商業ベースに乗らされやすい側面があることは否定できない。店内放送の童謡の放送過多はまだしも、情報過多による食事の摂取過多がメタボを生み、将来の日本人の健康やひいては国家の財政を左右しかねないのは皮肉な限りである。ちなみに100gあたりのカロリーはデコレーションケーキ 344Cal, チョコレートは 557Cal, そしてウナギの蒲焼きは 293Calであった。

青梅市 鹿児島 武志

社団法人 西多摩医師会

平成19年12月1日発行

会長 真鍋 勉 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 鹿児島武志

宮下吉弘 野村中夫 近藤之暢 渡辺良友 江本 浩
道又正達 古川朋靖 鈴木寿和 馬場眞澄 石井好明

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993

レセコンから今、多機能電子カルテ時代へ。



「Medical Station」は診療・検査から会計まで、医療現場をまるごとサポート。医療スタッフの煩雑な作業を軽減するだけでなく、インフォームドコンセントや待ち時間の短縮など質の高いサービスを実現。

検査結果は暗号化したインターネット・メールで、依頼日の翌朝にはシステムに自動的に取り込まれます。検査センターならではの充実した検査機能のほかに、レセコン機能による診療費計算の自動化、さらには経営分析にも手軽に活用でき、医療の現場をトータルにサポートします。



画期的な新技術により「非改ざん証明」を初めて実現しました

（株）NTTデータとの提携により、厚生省の医療情報電子化3基準のうち最も実現が難しかった「真正性の確保」を日本で初めて技術的に可能にしました。過去のカルテ情報に不正な改変のないことをNTTデータのSecureSeal™センタ（電子文書証明センタ）が厳密に第三者的に証明します。

ハイパフォーマンス電子カルテシステム

Medical Station

お問い合わせ・資料請求先
株式会社ビー・エム・エル
医療情報システム部
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-21-3
TEL: 03-3350-0392
e-mail: ms-sales@bml.co.jp
http://www.bml.co.jp/

開発元
株式会社メリッツ
戦略システム開発部
〒350-1101 川越市駒場1361-1
TEL: 049-233-7074



HMG-CoA 還元酵素阻害剤

薬価基準収載

クレストール錠 2.5mg
5mg

ロスバスタチンカルシウム錠 指定医薬品・処方せん医薬品^{※1}

CRESTOR®

注）注意—医師等の処方せんにより使用すること

※1：アストラゼネカグループであるIPR社の登録商標です。

- 効能・効果、用法・用量、禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意等につきましては製品添付文書等をご参照ください。

製造販売元（資料請求先）
アストラゼネカ株式会社
〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号
☎ 0120-189-1115（問い合わせフリーダイヤル
メディカルインフォメーションセンター）



発売（資料請求先）
シオノギ製薬
大阪市中央区道修町3-1-8 〒541-0045
☎ 0120-956-734（問い合わせフリーコール
シオノギ医療情報センター） 2007年4月作成